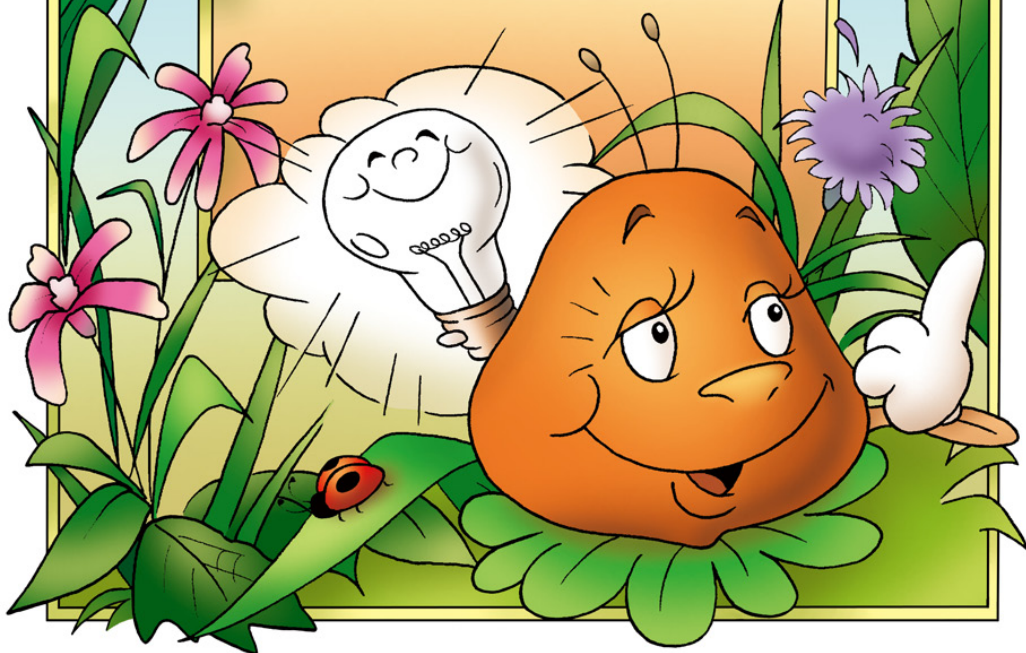




ゆかいな
むし
虫たち：
ホタルの花



「どうしたんだい、
トリスタン？」

かな
悲しそうな 顔で
まご
すわっている 孫の
み
トリスタンを見て、



ジェイクおじいちゃんが
たずねました。

しんゆう
「親友の カイルが 病気なんだ。カイルの お母さんが、
びょうき
うつるかもしれないから、あ
会っちゃ いけないって。」

「それは残念だね。だけど、彼のお母さんの言うことも、
もっともだな。病気になるたくはないだろう？」

「うん。だけど、いっしょに遊びたかったなあ。そしたら、
カイルだって気分が晴れるかもしれないでしょ。」

「カイルだって、いっしょに遊びたいだろうにね。だが、
したくなくても、正しいことを選ばなくちゃいけないことだって
あるさ。」と、ジェイクおじいちゃんが言いました。



「おじいちゃん、
カイルを元気づけるために
できることって、ないかなあ？」
と、トリスタン。



「それは、いい質問だね。やさしいんだね。
その答えになりそうな話を思い出したよ。
ビッツとリンカーンが病気になった時のお話だ。」



まった さいあく きぶん
「全く、最悪な気分。」

ベッドでうずくまっている
ビッツが言いました。

「ぼくも。」と、リンカーン。



きのう、2ひきの
虫たちが 出かけて
いると、急に 天気
が変わって 雷雨に
なりました。

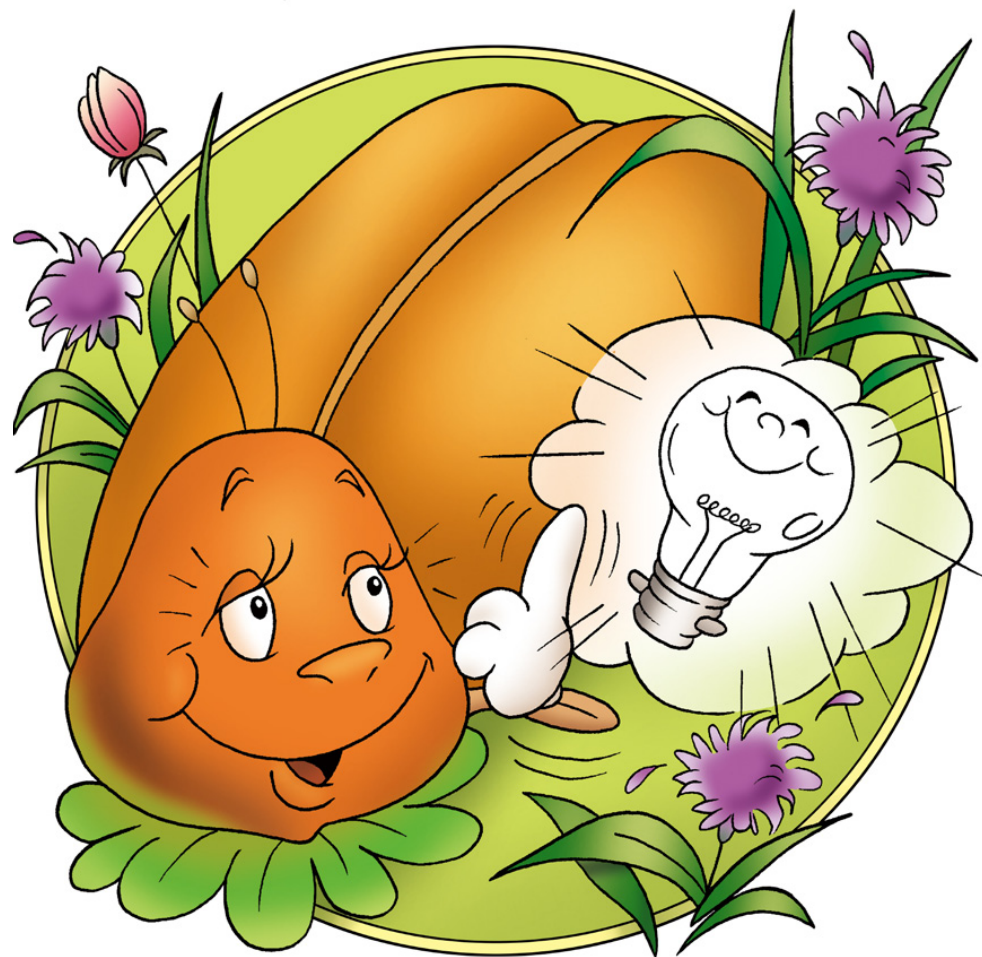
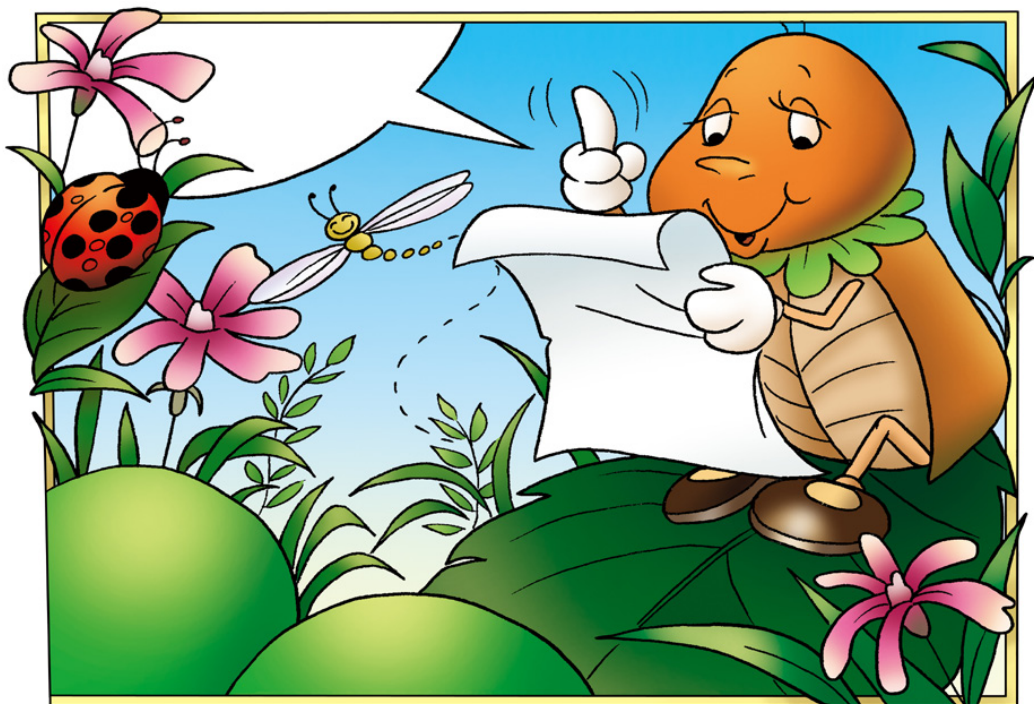
かさ代わりに した
葉っぱは、雨が
はげしくて 役に
立たず、家に 着いた
ころには、ビッツも
リンカーンも
びしょぬれでした。
次の日には

2ひきとも、かぜを
ひいて、せきこんで
いました。ひどい
気分で、葉っぱの
ベッドに 横になって
いました。

(まあ、かわいそうに！) そばを ^と飛んでいた ホタルの ファイアリーは、
ビッツと リンカーンが ^は葉っぱの ベッドに ^みうずくまっているのを見て、
^き気の毒に ^{おち}思いました。(神様、リンカーンと ビッツを ^{げん き}元気づける ために、
わたしに ^{なに}何が できるか、^{おし}教えてください。)

「もし わたしが ^{びょうき}病気だったら、^{なに}何が ^{げん き}元気づけに なるかしら？」と、
ファイアリーは ^{ごと}ひとり言を ^い言いました。「そうだわ！ ^{かみさま}神様、^よ良い
アイデアを ありがとう ございます！」 にっこり ^えほほ笑むと、
ファイアリーは ^{ほか}他の ^{とも}友だちを ^とさがしに ^い飛んで 行きました。

「わたしね、ビッツと リンカーンを ^{なに}はげますために、何か して あげられ
たらなあって、^{かんが}考えて いたの。それで ^{おも}思い付いたんだけど、みんなの
^{たす}助けが ^{ひつよう}必要なのよ。^{びょうき}病気の ^{とも}友だちを ^{てつだ}はげますのを ^{むし}手伝いたい 虫たちは？」



「もちろん！」と、みんなが ^い言いました。

「じゃあ、みんな、^{あつ}集まって。^{けいかく}計画を ^{はな}話すわね・・・」

まもなく ^{むし}すると、虫たちの ^{ちい}小さな ^{あつ}集まりは、わくわくしながら、
^{じゅんび}準備に ^と取りかかりました。



よる
夜になりました。
つき
月はいつにもまして明るく、
あか
ま くら そら なんびやく
真っ暗な空には、何百もの
ほし
星がキラキラかがやいて
いました。

みみ
耳にしました。

なに き
「何か聞こえなかった？」くしゃみしながら、ビッツがリンカーンに
たずねました。

ほう おと み
「こっちの方から音がしてたね。ぼく、見てくるよ。」と、リンカーン。



リンカーンは葉っぱからおりて、2、3歩先に行ってみました。「だれかいる？」

リンカーンが見つけたのは、何かが書かれている
ちい 小さな葉っぱだけでした。「ホテルの花をお送りします」と、
リンカーンが読み上げました。

「どういう意味かしら？」と、ビッツ。のどがいたい
こと以外のことを考えられて、ほっとしています。

「これって、何かのショーの名前みたいね。」

「ぼくたち、病気だから、何か見のがしているのかも。」

「たぶんね。」ビッツが悲しそうに言いました。

その時^{とき}です。ファイアリーが飛^とんできました。「やあ、ファイアリー！」と、リンカーンが言^いいました。

「こんばんは、ビッツとリンカーン！
はやく、ベッドにもどって、リンカーン。
あなたたちをおどろかせるものがあるの！」と、ファイアリー。

「おどろかせるもの？ 一体^{いったい}、何^{なに}かしら？」
ビッツはきょうみしんしんです。

「すぐに^わ分かるわ。」そう^い言うと、
ファイアリーはすがたを^け消しました。



「わあ、わくわくするなあ！」
リンカーンはすばやく
ベッドにもどりました。



まもなくすると、池^{いけ}の方^{ほう}から、
ウシガエルじいさんの歌^{うた}が聞^きこえて
きました。すると、1^{いっ}ぴきのホタルが
ひかり^{ひかり}はっ
光^{はつ}を^{はつ}発しながら、おど^{はじ}り始めました。

それから^{ほか}他のカエルたちがウシガエルじいさんの歌^{うた}に
くわ
加わり、コーラスになりました。すると、もっとたくさんの
ホタルたちが、カエルたちの見事^{みごと}なコーラスに^あ合わせ、光^{ひかり}を
はつ
発しながら、まるで花^{はな}のような形^{かたち}になって、おど^{はじ}り始めました。



リンカーンと
ビッツは、つい
先ほどまでの最悪な
気分も わすれ、
気持ちがあか
明るく なって、
最後までショーを
楽しみました。

ショーが 終わると、
リンカーンと ビッツは
歓声を 上げて、
はく手しました。

「本当に どうも
ありがとう！」と、
2ひきは 声高に
言いました。

「君たちの おかげで、
ぼくたち、ずっと
気分が よく なったよ。」と、
リンカーン。

2ひきは 心地よい ベッドの 中で、これから ねようとしていました。
ビッツが リンカーンに 言いました。「わたしたち、元気に なったら、
みんなの ために 特別な ことを しなくちゃね。」

「うん、そうだね。明日も たぶん ベッドに いなくちゃ いけないから、
その 計画を 立てようよ。」と、リンカーンが あくびを しながら
答えました。



「それは いいわね。じゃあ、お休み、リンカーン。」
そう 言うと、ビッツは ね返りを 打って、目を 閉じました。

「お休み。」と、リンカーン。





お話が ^{はなし}終わると、トリストanが ^い言いました。
「ぼく、カイルの ^みために お見まいカードを ^{つく}作るよ。」

ジェイクおじいちゃんも うなずいて ^い言いました。
「^き気に ^わかけて もらっている ことが ^わ分かれば、

きっと はげみになるよ。
^{できあ}出来上がったら、いっしょに
とどけに ^い行って あげよう。」

「ありがとう、
おじいちゃん。今すぐ、
カードを ^つ作るね。」 そう
言うと、トリストanは
わくわくしながら、自分の
^{へや}部屋に ^{かみ}紙と ^{いろ}色えんぴつを
と取りに ^い行きました。



きょうくん
教訓：

だれかを はげまし、^{げんき}元気づけて
あげる 方法は、^{ひうほう}かならず あるもの。
だれかに ほほ笑みを もたらし、
^{げんき}元気を ^だ出して もらう ために、^{じぶん}自分に
^{なに}何が できるか、^{かみさま}神様に ^{おし}教えてもらおう。